場所　第１音楽室

第３学年２組　音楽科学習指導案

授業者　北原　季

１　単元　「ふさわしい表現の工夫を考えて歌おう」
～混声三部合唱「YELL」を通して～
探究課題「皆で気持ちを揃え、自分たちの想いを歌で表現するためには」

２　本時の指導

（１）段階　「活用」　７／８　時間

（２）目標

・表情や言葉の発音など、聴き手により伝わるための表現の工夫を考え、自分たちなりの工夫した合唱を表現できる。　（「活用」に関わる目標）

（３）本時の指導展開

時間	学習活動	教師の手だてと支援
0	１　発声練習をする。	・発声法を意識するために、歌う前に姿勢や口の開きを確認する。
	学習課題　聴き手により伝わる合唱にするために、できる表現の工夫は何だろう	
5	２　前時の録画を視聴し、聴き手により伝わる表現の工夫を考え、パートで共有する。 ・客観的に聴いてみると思っていたよりも強弱の変化がない。 ・明るい歌詞なのに表情が暗く、ふさわしい表現とは言えない。	・自分たちの歌声を客観的に捉えるために、前時の録画をタブレットで再生する。
20	３　パート練習する。	・気をつけるポイントを意識し続けるために、ホワイトボードを活用しながら練習を進めるように促す。 **◎自分たちの歌声を客観的に捉えるために、タブレットの録画機能を活用するように指示する。**
30	４　パートごとに考えた表現の工夫の実践を発表する。 ・盛り上がりに合わせて口を大きく開けることで、より聴き手にインパクトを与えることができる。 ・弱い部分でも息をたくさん吐き、しっかり発音することで、より寂しい表現が伝わると思う。	・実践した表現の工夫が聴き手に伝わるか確認するために、パート同士で聴き合い、アドバイスをし合う場を設ける。 ・考えた表現の工夫を分かりやすく説明するために、各パートのホワイトボードを見せて活用しながら発表するように指示する。
40	５　三部合唱する。	
45	６　振り返りを書く。 「言葉の発音や強弱は明確に変化をつけないと伝わらないし、表情や息づかいも変化をつけることで、より表現を工夫できることが分かった。」	・合唱コンクール本番を意識して、今までに習得したことを活用できたかや、自分たちの合唱を客観的に捉えたことに視点を当てる。

３　評価

・表情や言葉の発音など、聴き手により伝わるための表現の工夫を考え、自分たちなりの工夫した合唱を表現できたか。
（授業の様子　ワークシートへの記述、振り返りの内容から判断する。）